

2019年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 令和元年6月14日(金)午後6時30分～
- 会場 阿寒町公民館
- 参加者 18人

【市長より説明 (別途資料参照)】

〇つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路

- ・釧路市の現状と課題
- ・釧路市まちづくり基本構想
- ・雇用の拡大、人材の確保
- ・子育て環境に係る施策
- ・学力向上に係る施策
- ・防災に係る施策
- ・都市機能向上に係る施策

●意見交換

【参加者A】

下舌辛のセイコーマート配送センターがあるところから、阿寒湖畔に向かって、阿寒町から釧路に向かうところの右側に、このたび歩道ができました。長さが約320m、幅が2m50cmのものです。これは、完全に工事が終わっている状態でしょうか。

【阿寒建設課長】

国道の車道の拡幅のことだと思いますが、平らな状態で2m程度の拡幅をし、完了となっております。

【参加者A】

それで完了ということであれば、そこを子どもが歩いていると危険です。車道と歩道の高さが同じですので、釧路から阿寒湖畔に向かって車が走ってくると、夜であれば単純に道路が広がったように見えます。私がたまたまそこを通っているとシカが出て、速度を緩めて走っていたら、普通は追い越しをかけるところを追い抜きされたことがありました。つまり、2m50cmの拡幅された部分を使えば、追い抜きができるようになったということです。これは非常に危ないです。今の状態で工事が完了だと言うのであれば、例えばポールを立てるであるとか、何か対応をしてもらいたいと思います。

今、全国的に子どもの交通事故がニュースになっているので、そのような事故が起きてしまう可能性もあると思います。普通は歩道の部分が高くなっているのに、暗い夜でも見分けがつくと思うが、今の状態だと暗い時に見分けがつかない状態なので、対応をお願いしたいと思います。

【阿寒建設課長】

該当の箇所は、町内会から拡幅の要望があったこともあり、阿寒から国へ道

路の拡幅を要望してできたものであります。拡幅してそのような危険があるということであれば、国道を管理しているのは国になりますので、釧路道路事務所に状況を説明させていただいて、要求をさせていただきたいと思っております。

【市長】

大津市の事件も踏まえながら対応していきたいと思っております。また、拡幅に関しても、サイクリングロードであることも考慮しなければならないと思っております。今の状況では非常に危険だということですので、現場とどのような形で対応できるか検討していきます。皆様のご意見等も、阿寒建設課に教えていただければ幸いです。

【参加者 A】

阿寒診療所の高橋先生が4月から転勤をして、次の内科の先生が日替わりのような状態で阿寒町に来ていただいております。何とか固定したお医者さんを付けていただければありがたいです。

【阿寒町行政センター長】

高橋先生が3月で退任されまして、皆さんにご心配をおかけしております。現在、週3日、北海道地域医療振興財団などから、短期派遣制度を利用して、内科の先生に来ていただいております。後任の内科の常勤医師については、今、全国自治体病院協議会、あるいは北海道地域医療振興財団をはじめとして、色々なルートで情報提供や紹介のお願いをしております。医師の確保はなかなか難しい問題ですが、全くどこからもお話がないという訳ではありませんので、目途はまだ立っておりませんが、具体的な動きはそれなりにあると認識しております。そのような意味では可能性があると考えておりますので、引き続き色々なルートを通じてお願いをしていながら、早期に医師の確保をしたいと考えております。

【参加者 A】

私も診療所の様子をつぶさに見ておりますが、4月以降、院長の中村先生、それから看護師の皆さん、非常に一生懸命やっていると感じます。ただ、なるべく蝦名市長には、固定したお医者さんを一日でも早く確保していただければと思います。よろしく願いいたします。

【市長】

医療の機能については、先生方の努力で成り立っているものだと思っております。市立釧路総合病院も、地方センター病院という拠点病院です。先生の数に関して、他の地域の病院では120人くらいの先生で成り立っているのですが、市立釧路総合病院は90人と足りないくらいの数で、しっかり機能を維持していただいているという実態があり、先生方には本当にご面倒をかけながら進めているところであります。

現状、診療所は中村院長1人になっており、本当に申し訳ないという気持ち

です。ただ、どうしても日本の国全体で考えた時に、医師の数は足りているのですが、偏っている状況です。そこがまんべんなく広がれば問題ないというのが国の考え方なのですが、医者に対しては、職業選択の自由のため、この地域に勤務しろとは言えないのが現状です。そのような意味で、全ての自治体で医師不足という現象が発生しているのです。その中で、北海道や周りの自治体も一緒になって連携していきながら、医師不足の解消に向けて働きかけを行ったり、地域枠の活用を行ったりしているところでもあります。しっかりと成果が出るように、阿寒町行政センター長と一緒に進めていきたいと考えております。

【参加者B】

「若い世代の転出問題に対して、働く場所を確保することが大切」と言われていましたが、具体的な施策が全体的に無いような気がします。問題点の指摘と、今後の方向性についてはよく分かりましたが、具体的な施策をもう少しお聞きしたいです。

【市長】

現状を考えた時に、地元の会社の情報は子どもたちに伝わっていないと思います。家で仕事をしていたら家業を継ぐといった考えが出てくるとは思います。それがなければ、やはりどこかで働くか、進学することになると思います。また、都会に行ってみたいという気持ちを、誰もが持つのだと思います。その中でも、地元で働いていきたいという気持ちを持つ子どももいると思います。そこで、しっかりと釧路地域の情報や仕事のやりがいを伝えることに取り組んでいかなければいけないと思います。

それから、所得は大事だと思います。給料25万円と20万円であれば、当たり前に25万円の方が高く、魅力的です。ただ、都会の25万円と釧路における20万円であれば、生活する時に掛かる費用を勘案したら、最後に残るのは20万円の方であるという考え方もできると思います。このようなことをしっかりと行っていかなければ、分からないと思います。蒸し暑くて満員電車に乗らなければいけない都会よりも、釧路をPRしていくために、まずは所得のアップ、つまり地元の会社が儲けてもらいたいと考えております。そして雇用も増やしていただきたい。そこを行政と一緒に視点を解決していく必要があると考えております。そうすると自然に人口も増えていくのではないかと考えています。

そこで、今、強みである「農業」についても効率を上げていこうということで、釧路・根室管内の酪農の中で目標を3つ掲げています。「根釧酪農ビジョン」というものを、行政も入って作っておりまして、目標のうち一つは、草地面積の更新をしていこうというものです。二つ目は、新規就農も、現在よりもまたプラス10人を必ず増やすように頑張っていこうというものです。最後に掲げているのが、所得です。所得を生乳キログラムあたり30円にする目標を

立てています。これは重要なことだと考えています。後継者不足の問題についても、所得が多いと後継者も増えていくと思います。帯広の農業を見てみると、農業生産額は3,500億円以上あります。例えば、農業を行ったとして、一年間の純利益が1,500万円あったとします。息子さんがどこかで働いていて、この話をしたとしたら、帰ってくることもあると思います。

実は、所得というものは、すごく大切な話です。所得は何によって得るのというと、それは企業の躍進です。所得の高い所には人が集まります。所得をどのようにしたら高くできるかといったら、会社が儲けなければいけない。そこを考えることが必要だということです。

【参加者B】

釧路工業高等専門学校の卒業生は一体どこに行っているのでしょうか。地元には残っていないはずですが、これからの世の中は、人手の確保が大変な時代になると思いますので、釧路工業高等専門学校を卒業する人材を地元で雇うということが大切だと思います。企業誘致の問題もありますけれど、このようなことをうまく活用することも考えていただきたいと思います。

【市長】

大変大切なご指摘をいただき、ありがとうございました。企業誘致についても、しっかりと進めております。企業誘致は、必然性が必要だと思っております。例えば、大塚製薬工場は音別に来ていただいておりますが、何故かといいますと「水」であります。釧路市内にある製紙会社も「資源」という必然性があります。つまり、釧路でなければできないというものを誘致する必要があると思います。1つだけに頼ると、どうしても継続しないということがあると思います。これらから、企業誘致だけでなく、幅広くやっけていこうと考えているものであります。

釧路工業高等専門学校との連携については、本当に重要なことだと考えております。他都市を見てみますと、北見市が北見工業大学の学生に、地元就職してもらおうということで、サテライトオフィスを設置しました。色々なことを進める中で、学生を組み入れており、地元の情報を出し、関心を持たせることに取り組んでいます。十勝においても、帯広畜産大学の関係で色々な取り組みを進めているところであります。

去年、釧路工業高等専門学校から1人、市役所に入ってくださいましたが、今年は地元に入るのは0人でした。理系の人材を欲しがっている会社はたくさんありますが、やはり地域の中で色々な情報を出していくことが大切だと思います。

【参加者B】

釧路市には、色々な資源があります。その資源をどのように活用していくのかを考えるのが行政の仕事だと思いますので、うまく有効に使っていただければと思っております。

【市長】

今ある資源を有効に活用していくことが重要だと思っております。

昔の釧路市は、石炭、水産、紙パルプの3つの基幹産業で恵まれていました。特に水産でいえば、日本の中で1,200万トンの水揚げがある中で、その時に130万トンの水揚げを誇っていました。今は水揚げに関して言えば、14万2,000トンで、全国で2位となっております。

釧路市には資源がたくさんあります。ただ、昔の大量生産、大量消費という流れではなく、適正な形で進めていくことが大切だと思っております。地方創生に関しては、昔のことを踏まえて取り組んで進めていくことが重要だと考えています。

【参加者B】

釧路は電気代が高いから、製品が高くなってしまおうということを知っております。今あるものを無くさないような形、今無いものを企業誘致するなど、もう少しダイナミックに進めていただければと思っております。

【市長】

厳しい環境の中で、思い通りにならないのが経済であると思います。その中で、今あるものをどのように生かすかということに重点を置きながら、経済・雇用について進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【参加者C】

市立釧路総合病院に関する質問です。

阿寒診療所の先生たちも、とてもよくしてくれるのですが、少し重たい病気になると市立病院にまわされます。私の親も市立病院に入院したり、私自身も市立病院の眼科にかかったりすることがあります。そのような中で、市立病院は本当に大事な存在で、いつもとても混んでいます。ですから、増築ということは大切なことだと思うのですが、マスコミの報道を見る限り、現状がどのようになっているのかよく分かりません。今後、どのような計画・期間で、どのように進めていくのかについて、お聞きしたいです。

【市長】

市立病院のことにつきましては、ご心配をおかけしております。

市立病院の混み具合については、昔は1日2,000人くらいの方が受診しており、今よりさらに混んでいました。今は1,200人くらいであったと思います。普段は、民間のお医者さんに行ってくださいということが、国の医療の進め方になっておりますので、混み具合については、昔よりかなり緩和されていると思います。

市立病院は、ひがし北海道の中で最後の砦だと思っております。つまり、最後に市立病院で対応できなければ、どうしようもないということです。そのためには、市立病院の機能をしっかり維持していこうということで、新しい病棟の

建設計画と併せて、緩和ケアなども行っていくものであります。ところが、設計の段階で、工期に間に合わないことなどがありました。今は、設計会社を相手に、裁判を行っております。

これにより、市立病院として機能がなくなるのかという点、そこには結びつきません。現在、もう一度、院長先生を中心に、先生方とこの状況の中でどのように進めていくかを改めて相談しているところで、今後、新たな対応を示したいと考えております。

市立病院が釧路・根室管内の32万人の砦でありますし、ドクターヘリも配置されており、十勝とオホーツクのエリアもある訳です。それが市立病院の機能です。今は、具体的にいつまでどのようにするかということは決まっておりますが、現状で機能をしっかりと確保できておりますので、よろしく願いたします。

【参加者C】

裁判問題になったという原因・責任はどこにあるのでしょうか。もし、裁判で敗訴となった場合に、経費も結構かかると思います。そのような問題はどうかになるのでしょうか。

【市長】

私は、今回の裁判に負けるとは思っておりません。設計会社と契約をやめた責任は私にあります。普通はどのようなものも約束事で成り立っているものであります。今回の件については、3月25日までに設計図を完成させるという約束でした。私たちは、その納品される設計図をもとに9月から工事に入りますという話をしておりました。ところが、3月25日の前、3月10日頃までは「大丈夫です」と言われていて、3月15日頃に、急に「できません」と言われました。そのようなことはあり得ないです。私たちとしては、契約のお金も払っていたことから、信じられない気持ちです。もし、私が設計会社側であったら、事前にできるかできないかの話をしていくのが当たり前だと思います。そのようなやりとりの中で信頼関係が無くなったと思っております。

様々な人の協力や思いで成り立っていたものが崩れ始めたので、私の責任で契約をやめる判断をしました。

【参加者C】

違約金を払うであるとか、無駄なお金を使うことなく、市民に負担のかからないような解決策をお願いしたいと思っております。

【市長】

そのまま進めていたとすれば、さらに、とてつもない負担が市民の皆さんにかかっていたと思っております。全ては、信頼というものがあって、成り立つものだと思います。裁判の結果が出ましたら、様々な話が出てくると思いますが、その責任は私が受け持っています。

【参加者D】

阿寒町に食品加工業が来て欲しいといつも思い続けています。例えばチーズ工場は、釧路管内をみても各町村にあるのですが、釧路市にだけありません。これだけ牛がたくさんいる地域で、残念な思いです。それには、まずチーズを作る技術が必要で、工場も必要であると思いますが、それに組み込むには、やりたい意欲を持った人が必要であると思います。

ただ、なかなか現状では難しいと思います。技術の部分については、職員を海外に派遣して技術を持ってこられることもできると思います。それから、この地域だけで売るのであれば、消費力が少ないという問題もあります。やはり、特色のあるチーズを作って、全国に売り出す必要もあると思います。例えば、チーズに関していえば、加工することによって、お菓子屋でも使えて、常温でも日持ちするチーズもいいと思います。

できればそういう機能を、阿寒町観光振興公社に、市長から特命で「チーズを作れ」ということを言えませんか。当然、大変なことかと思いますが、誰かがやらなければいけない。民間に力がない時に、そのような行動も必要だと思います。阿寒湖畔があるので売り先もありますし、空港もありますし、もっと言えばインターネットでも売れる時代ですから、特色あるチーズを作れば、まだ道はあるのではないかと思います。ですから技術をどのようにするのかということになります。もしかしたら、釧路市民でやりたいと思っている人がいるかもしれない。そのきっかけを行政が作って、支援をするといったことができないのかと思います。

何か一つくらい、この地域に地域の特色を生かした産業ができないかと思ひまして、質問させていただきました。

【市長】

チーズ工場は釧路管内に4社程あり、クレインズテラスや市内のマルシェでも品物を取り扱っております。お話のとおり、そのような工場が欲しいという思いはあります。ただ、行政がどのような形の中でビジネスに取り組んでいくかとなると、行政は商売をしたことがない人間ばかりです。商売をしたことがある人がチーズ工場を立ち上げたいという思いがあった時に、その人をバックアップする手立てはあります。行政が何かを始めるのではなく、民間がチャレンジしていくことを、行政が仕組み・制度を使ってバックアップしていくことが大切であると思っています。何か展開することがあれば、ぜひともそのバックアップをしていきたいと考えております。

【参加者D】

市長のリーダーシップできっかけ作りをして欲しいです。チーズを作るために、技術者をどのように育てるかについては、公募することもいいですし、勉強させることもいいと思います。さらにその技術者がいたら、工場をどのようにするのかということも含めて、行政が9割ぐらい面倒を見るということが必要だと思います。経営は任せてもいいと思います。事業として進めるくらいま

でのきっかけ作りを考えて欲しいと思います。やる気がないのであれば、やる必要はないです。やるとすれば、そのような方法があるのではないかということです。

【市長】

やる気がない訳ではありません。私は、事業というものは、その人の夢や思いがあつてこそ成り立つものだと思っています。例えば、AIRDO（エアドゥ）についても、たった一人でスタートをし、今があります。そのきっかけであります。例えば、北海道が主導で最初から進めてうまくいったものは一つもありません。つまり、行政はビジネスをしない。ただし、誰かが何かをするときに、そこをどのようにバックアップできるかという役割を担っています。やっ
ていく人の思い等があつた時に、行政が離れていくような形ではなく、お手伝いをしていくことが一番重要だと思います。